

美の魅力発信プラン ～ 美の魅力にあふれる滋賀をみんなの美術館に ～

美の魅力発信プランの2年間の実績について

文化芸術振興課 美の魅力発信推進室

施策展開の4つの柱

(1) 交流や発信の場づくり

① 美の発信に関する総合センター(プラットフォーム)の設置

県立美術館に、美やアートを通じた交流や発信の拠点としてのプラットフォーム機能を付加

公立の美術館としての機能

+

美の発信に関する総合センター (プラットフォーム)

企画・広報

応援団づくり

活動支援

相談・コーディネート



県立美術館

美やアートを通じた交流や
発信の拠点

- ⑦ 美の発信に係る統一的な事業展開
(ロゴマーク・キャッチフレーズの作成・活用、専門家からの助言)
- ① 美の魅力の効果的な発信
(美の資源に関する特集記事や周遊コースの発信)
- ⑨ 美の発信の応援団づくり
(美の発信を応援していただける関係者との連携構築)
- ④ 団体や地域等が行う美の発信の取組支援
(アートイベント等の支援、県内若手作家支援)
- ⑧ アール・ブリュットの魅力発信
(身近な場所での映像展示、NO-MA、やまなみ工房等との連携、美術館における収集・展示)
- ⑦ 教育現場と連携した次世代育成
(県立美術館等と連携した美術教育の支援)
- ⑤ 県施策との有機的連携
(観光事業やブランド力向上事業との連携)

② 出合い、学び、つながり、発信の場・機会の創出

びわこ文化公園内で「アートのひろば」としてアートに関するイベントやワークショップを定期的開催し、出合い・学び・交流や賑わいを創出

これまでの成果

・多様で豊かな美の魅力が、各地域に満ち溢れている滋賀県全体を、あたかも、ひとつの「美術館」のように感じていただけるよう、『美の魅力にあふれる滋賀をみんなの美術館に』というコンセプトのもと、滋賀の美の魅力発信事業を展開することができた。

・滋賀の美の資源を活用した県内各地域でのアートイベント等の取組への支援を行い、各団体の連携と情報発信を強化することができた。

・県立美術館に「アール・ブリュットおよび信楽焼常設コーナー」を設置することで、県立美術館自身の魅力向上と併せて、滋賀ならではの文化資源をテーマにした観光や周遊のきっかけを作ることができた。

・びわこ文化公園内をフィールドに、公園内各施設や県内の団体・作家等と連携し、子供や親子連れを対象としたアートや文化関係のワークショップ「美の糸ローアートにどぼん！」を開催し、アートや滋賀の文化に触れることができるカルチャー・パークとしての賑わいに繋げることができた。

これからの課題(取組)

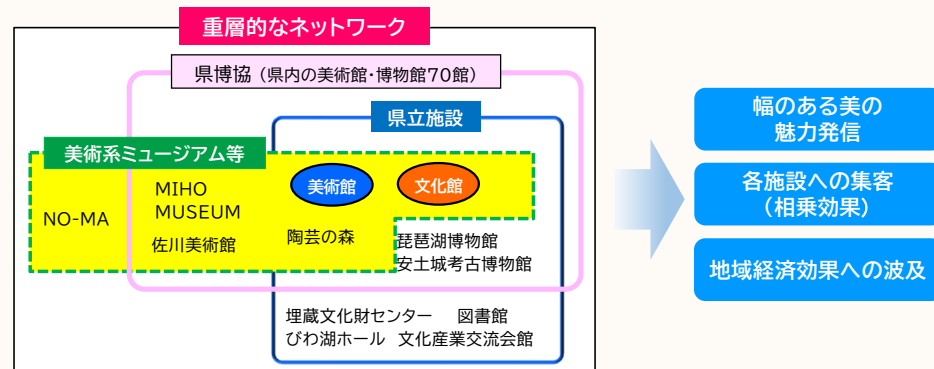
・多様な団体との連携をより一層進めるとともに、今後のインバウンド需要に対応した効果的な発信を行っていく必要がある。

施策展開の4つの柱

(2) ネットワークを活かした多面的な発信

県立美術館と琵琶湖文化館を核に、県立施設間や美術系ミュージアム間で有機的連携を図り、話題性や発信力のある取組を展開

県内の美術館・博物館70館で構成される滋賀県博物館協議会等とも連携



連携事業 (取組例)

- ▼ ジャンルを融合した企画展示やワークショップの実施
- ▼ 「水」や「食」など統一テーマに基づく連携事業の実施
- ▼ 各館のコレクションを横断的に活用した企画展示
- ▼ 複数館による県ゆかりの若手作家作品のリレー展示
- ▼ ホームページやSNS上での共同PR、統一プロモーション（施設横断スケジュール、他館展覧会の紹介 等）
- ▼ リーフレットやチラシの相互配架
- ▼ 教育普及事業やワークショップの合同開催、モバイルスタンプラリー

これまでの成果

・「美の魅力発信5館ネットワーク」を設置したことにより、滋賀の美の魅力を多面的な発信に取り組むための連携体制を構築することができた。

これからの課題（取組）

・今後、各施設の有する美の資源を掛け合わせ新たな価値を上げる等の工夫を積み重ね、協働による滋賀の美の魅力を発信に取り組む必要がある。

・こうした取組を、他の県立施設や美術系ミュージアム等も含めた公立・私立の枠組みを超えた連携に繋げていきたい。

施策展開の4つの柱

(3) 美術館改革

令和3年6月下旬に再開館する県立美術館において、従来イメージを刷新し、魅力あふれる美術館づくりに取り組む。

「かわる、かかわる」ミュージアム

創造(Creation)、問いかけ(Ask)、地域(Local)、学び(Learning)の4つ(CALL)を軸に、「つねにフレッシュなミュージアム」というモデルを滋賀から発信

①再開館に向けた対応

- ⑦館名の変更(特定の傾向を想起させる「近代」を外し、「滋賀県立近代美術館」を「滋賀県立美術館」に)
- ④ディレクター(館長)のリーダーシップを発揮した館運営
(ディレクション+マネジメント)
- ⑨ビジュアル・アイデンティティデザインの導入
- ⑤従来の施設イメージの刷新、リニューアル
- ④WEBサイトの全面リニューアル(多言語化、オンライン美術館開設)

②再開館後の展開

- ⑦積極的な館のPR(ディレクター(館長)の積極的な館外活動等による)
- ④経済界とのつながり創出(企業経営者等との交流によるラーニング機能充実)
- ⑦展覧会改革(特色あるコレクションの積極的活用、オンリーワンの自主企画)
- ⑤多様なアート体験の提供(きめ細かな鑑賞・体験プログラム)
- ④他施設との連携(県立施設間、ミュージアム間連携等の中核、県外施設連携)
- ⑦美術館ボランティアの充実(県民と県立美術館との間をつなぐ架け橋となるボランティアの育成)
- ④経営の健全化(メンバーシップ制度・サポーター制度の創設、コスト意識の向上)
- ⑦美術館に至るまでのワクワク感の創出(公園内のモニュメント設置、駅の案内充実)
- ⑦公園内施設との有機的連携(アートのひろばの展開、図書館との連携)

③さらなる施設機能向上の検討

- (検討課題) ⑦収蔵庫の収容力向上 ④展示室充実 ⑨ギャラリー充実 ⑤北側エントランス整備
④館のシンボルとなる大型作品の設置 ⑦施設の長寿命化 ④環境負荷の低減

④想定スケジュール

令和3年6月下旬の再開館後、5年程度かけて展覧会改革等の取組を着実に推進
さらなる機能向上については、再開館後の状況等を踏まえつつ実施内容や実施時期を検討

⑤目標

		実 績	目 標
利用者数	観覧者数(常設展・企画展)	(平成28年度) 60,882人	(令和7年度) 100,000人
	教育・交流事業参加者数	(平成28年度) 49,328人	(令和7年度) 60,000人
来館者の満足度(「大変よい」「良い」)		(平成27年度) 79.8%	(毎年度) 90%

これまでの成果

・令和3年(2021年)6月に約4年振りに再開館を果たして以降、滋賀にゆかりの作家やコレクションを紹介する独自企画や他館との協働による意欲的な展覧会を開催するとともに、学校等との連携により県内各地の子どもたちへの美術鑑賞や創作を楽しむ機会を提供する取組などを行ってきた。

・さらに、事業の実施にあたっては大学をはじめ他機関との連携を深めるとともに、メンバー制度(会員)の充実や寄附の獲得や広報の充実など、運営の改善や安定化にも取り組んだ。

これからの課題(取組)

・令和6年(2024年)には開館40周年を迎えることを機に、これらの取組の一層の充実を図るとともに、さらなる施設機能向上の検討課題や近年の状況の変化に対応し、美術館が滋賀の美の魅力を発信する存在感のある施設となるために、令和5年度から魅力向上の施策の検討を始める。

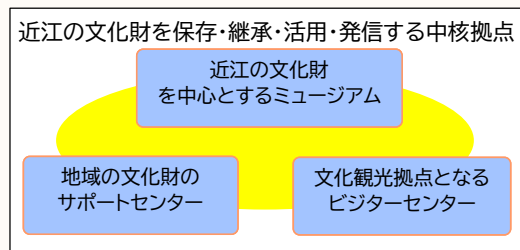
施策展開の4つの柱

(4) 琵琶湖文化館のリスタート

休館中の県立琵琶湖文化館を「(仮称)新・琵琶湖文化館」として整備

①基本理念 近江の文化財で“つなぐ”“ひらく”未来の滋賀

②施設像



③活動計画

<活動の5本の柱>

- ①収集・保管 ②展示
- ③調査・研究
- ④情報発信・交流
- ⑤地域の文化財の保存・活用支援

×

<活動の3つの視点>

- ①県内歴史文化系博物館の核となる役割
- ②誰もが利用しやすい工夫
- ③コロナ後の社会を見据えた博物館

④施設整備計画

⑦整備基本方針 文化財を守り継承する施設としての機能充実(公開承認施設を目指す)

立地環境との調和、ユニバーサルデザイン、環境負荷低減

④立地 大津市浜大津 大津港港湾業務用地(県有地)および隣接する大津市有地

⑦施設規模等 (想定延床面積)約6,700㎡ (想定整備費)約69億円

⑤来館者目標 200,000人

⑥事業推進スケジュール(目標) (竣工)令和8年春 (開館)令和9年度

これまでの成果

・「(仮称)新・琵琶湖文化館基本計画」に基づき、官民連携手法等導入可能性検討調査を実施したところ事業の実施手法はPFI(BTO)手法が適するとの評価を得た。

・(仮称)新・琵琶湖文化館整備事業として設計・建設・管理運営を一括発注するPFI事業に係る実施方針の策定や、特定事業の選定、入札公告等を実施した。

これからの課題(取組)

・令和9年度の開館に向け、整備事業の着実な実施を図る必要がある。

目標の達成状況

目 標			(R3年度)	(R4年度)
利用者数 (館外での活動を含む)	【平成28年度】 ■観覧者数 60,882人 (常設展) 24,061人 (企画展) 36,821人	【令和7年度】 ■観覧者数 100,000人 (常設展) 40,000人 (企画展) 60,000人	■観覧者数 52,080人 (常設展) 22,475人 (企画展) 29,605人	■観覧者数 70,523人 (常設展) 36,404人 (企画展) 34,119人
	■教育・交流事業 参加者 49,328人	■教育・交流事業 参加者 60,000人	■教育・交流事業 参加者 4,019人	■教育・交流事業 参加者 16,343人
来館者の満足度	【平成27年度】 県立美術館の満足度 「大変良い」または「良い」 79.8%	【毎年度】 県立美術館の満足度 (滞在が有意義であったか) 「大変良い」または「良い」 90%	県立美術館の満足度 (滞在が有意義であったか) 「大変良い」または「良い」 84.1%	県立美術館の満足度 (滞在が有意義であったか) 「大変良い」または「良い」 89.8%

これからの課題(取組)

・令和3年(2021年)のオープン以来、新型コロナウイルス感染症の影響も受け、企画展の観覧者数や教育・交流事業の参加者数などの利用者数について、目標を下回る状況にある。

・今後は、より多くの展覧会観覧者の獲得に努めるとともに、ギャラリーの利用促進等にも一層取り組み、目標の達成を図っていきたい。